



板持 文子 議員

太陽光発電の可能性と
条例づくりについて

問 自然エネルギー利用にあたっての条例制定が必要と考えるが

答 現時点では条例の制定までは考えていません

者もしくは土地所有者に連絡し、適正管理の指導を行っています。

問 公共施設における太陽光パネルの設置と公用車のEV化および公用車のカーシェアリングの仕組みを提供してはどうか。

答 総務部長

設置コストや維持管理経費、また、移動が広範囲に及ぶという本市特有の課題もあることから、今後、国の動向を見据え、他の自治体の事例も参考にしながら、検討していきたいと考えています。

問 再生可能エネルギーのポテンシャルを踏まえ、生活環境との調和を大切にしながら、スピード感を持って太陽光発電を進めていくべきと考え質問する。

答 太陽光発電を含む再生可能エネルギー政策の進捗状況は、

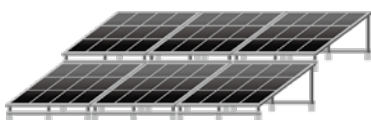
問 環境部長

国の地球温暖化対策計画および県のCO2ネットゼロ社会づくり推進計画に沿って、本年度から2か年をかけて地球温暖化対策計画を策定します。

問 メガソーラーへの反対の多い高島市において、自然エネルギー利用にあたっての条例制定が必要と考えるが。

答 環境部長

国のガイドラインや市の開発指導要綱に基づき、一定規模以上の太陽光発電システムの新規整備については、開発事業者に必要な措置を求めている。現時点では条例の制定までは考えていません。



問 今年再開される環境審議会では、これまでに太陽光発電の設置に関する議論はあったか。

答 環境部長

太陽光発電をテーマにしての議論や調査をしたという状況はありません。

問 破損した太陽光パネルの処置に関する事業者への指導はされているか。

答 環境部長

破損した太陽光パネルの放置が確認された場合には、現地を調査のうえ、パネル設置

問 朽木地域に貨客混載EVバスを提案するが見解は。

答 都市整備部長

地域特性や利用ニーズを踏まえたうえで、他の事例等を参考にしながら、効果的・効率的な運送等について研究をしていきたいと考えています。

貨客混載・乗客と荷物の輸送・運行を一緒に取り組み
EV・電気自動車